

# 「私たちの表現の不自由展・その後」に対する 妨害行為に抗議するとともに、 徹底した捜査と経緯解明を求める声明

本年7月6日～11日の日程で、「私たちの表現の不自由展・その後」が名古屋市民ギャラリー栄で開催されていた。この展示企画は、2年前、「あいちトリエンナーレ」で展示されていたものが、河村名古屋市長などにより、「偏った展示を公金を使っておこなうことは許されない」などと発言し、その結果、脅迫や暴力的な抗議電話などによって、開会後わずか3日間で中止に追い込まれ、その後、再開されるまで2ヶ月以上にわたり展示ができなかった経緯がある。

今回、7月8日に市民ギャラリー栄宛に、不審な郵便物が届き、職員が開封した際に中に仕込まれていた爆竹が破裂したとされているが、名古屋市は主催者に対し、きちんとした説明をすることなく、一方的に「ギャラリーの使用中止」を通告し、その結果、「私たちの表現の不自由展・その後」は中止に追い込まれた。

しかし、7月8日、いったん展示を中止して行われた警察の捜索によっても、さらなる不審物は発見されず、市民ギャラリー栄の入っている7階と8階以外では、職員の避難を行うこともなく、正常な業務が続けられていたのであるから、警備を強化するなどの対策を講じたうえで、「私たちの表現の不自由展・その後」を速やかに再開することは十分可能であった。

「私たちの表現の不自由展・その後」を妨害するために不審物を送りつける卑劣な行為が許されるものでないことはいうまでもないが、このような脅迫に屈して、一方的にギャラリーの使用を中止した行政及び警察の対応は、到底、市民の表現の自由を守る立場に立つものとはいえない。

私たち国民救援会は、今回の暴力による表現の自由への挑戦に断固として抗議する。また本来会場の使用は、憲法および地方自治法で保障されているにもかかわらず、安易にこれを否定する措置をとった名古屋市に対しては、市民ギャラリー栄の使用を中止にした経過を明らかにするよう求める。警察に対しては、危険物を送付した人物やこのような行為に関与した者を明らかにし、厳罰に処せられるよう、徹底的に捜査を尽くして、真相を解明することを求める。

2021年7月

日本国民救援会愛知県本部